

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1276600119
法人名	有限会社 ヤシマ
事業所名	ハートライフ一宮
所在地 (電話番号)	千葉県長生郡一宮町船頭給230-5 (電話) 0475-42-7400
評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成19年10月2日

【情報提供票より】(平成19年9月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤	人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <input checked="" type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 / 改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有() 円) <input checked="" type="radio"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 (300000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	名	男性	5 名	女性	11 名	
要介護1	5 名	要介護2	3 名			
要介護3	5 名	要介護4	3 名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	82.6 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長生八積病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の中、どこか分校を思い出すような平屋建てのグループホーム ハートライフ一宮がある。「人として、個々に尊重してその人らしく生活していける場であってほしい」との願いの通り、入居者各自がマイペースで過ごしている暮らしぶりが微笑ましい。新築の建物は、まだ木の香りがして、採光も抜群である。共有部分には、ソファが設置されており、裁縫をしたり・うたた寝をしたりと自由な空間になっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	入居者の家族との接点がうすいとの評価に対して、現在は家族との交流会を多く企画しており、徐々に家族の参加も増えつつある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価についての職員への浸透は十分ではないが、今後は作成をした内容について検討していきたいと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現在、運営推進会議は発足しておらず、今年の12月の開催に向けて行政及び地域の関係者と調整中である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情処理委員会は発足しているが今のところ苦情は無い。家族からの意見・要望についてはその都度話し合いを行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会・地域活動にも積極的に参加している。近隣保育園との交流も多く散歩時に保育園に伺うこともある。地域では、お祭り・盆踊り・フラダンスなどのイベントにも参加している。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者、職員、地域密着を意識した独自の理念を掲げている。ニーズに応じて理念の追加、変更も考えている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全ての職員が理念を共有し日々取り組んでいる。理念に基づいたユニット別の年間目標があり、事業所内に掲示しており、サービスの質の向上に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のイベント情報は職員が収集し、お祭り・盆踊り・フラダンスなどに積極的に参加している。ボランティア・保育園・地元の人に対して施設を開放することをこころがけており、近くの保育所からの慰問も多い。また、散歩の途中に地域の方々を訪問することもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を理解し、積極的に受けていこうという意思が感じられる。しかし職員の理解は不完全である。今後は、計画作成担当者を中心として理解を深め業務の改善につなげていく予定である。		自己評価票を作成すると共に、職員、家族に評価表の各項目の意義を理解してもらうことも大事ではないかと思われる。また、関係者全員評価にかかわることにより、一層自己評価票が意味を持つてくると思われる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、行政や民生委員に働きかけをしており、12月から開催する予定である。今後は行政及び地域の方々と共に、協力しながら運営推進会議を意義のあるものにして行こうと考えている。		地域に運営推進会議の必要性、意義を理解していただき、定期的に会議を開催することを望みます。

【千葉県】グループホームハートライフ一宮

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常に行政担当者と相談をし、情報交換をしている。また、足りない部分については施設独自に情報収集を行い、サービスの向上につなげている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	変化があれば、随時電話で連絡を入れている。月に1回は文章で報告すると共に、家族の面会時近況報告もしている。金銭管理は行っていないが、要望があれば、立て替えて後日精算をしている。また、集金を兼ねて訪問し、家族との接点を設けている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理委員会は発足してはいるものの、今のところ苦情は無い。面会時、ご家族からの意見も吸い上げており、要望があれば、その都度ご家族に回答をしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット毎で、職員の入れ替えを行う事があるが、既に馴染みの関係なので入居者へのダメージは少ない。また、新しく職員が入職する時は、ご家族への紹介はしていないものの、各入所者へは紹介しており、一日も早く馴染みの関係が気づけるように努力をしている。馴染み方も個人差があるので個々のペースに合わせて対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成と情報交換を目的として、内部勉強会を行っている。新入職員が入職しても段階的に育成しているため、職場にスムーズに溶け込むことが多い。外部研修にも、時間が許す限り出席している。研修報告はその都度行い、職員全員で情報を共有すると共に、職員のスキルアップにも役立てている。パート職員1名以外は全て正職員で対応しており安定した介護サービスに取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック連絡会で、研修会が2ヶ月に1回あり、その都度、色々なスタッフが参加してお互いの意識向上につなげている。また、研修会で情報交換が行われており、今後は、ブロック内のホーム見学会の予定があり、交流の場としても期待をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入院先からの入所の場合は、入院先の病院に何度か足を運び、職員と馴染みの関係を築いて上で入所していただいている。人員に余裕があるため、可能な限り訪問すると共に、接遇マニュアルの徹底により相手に対し常に配慮することに心がけている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理の味付け、昔の歌・遊びなど教えてもらうことが多い。話の中に、入居者の方のこれまでの人生が垣間見られ、人生の先輩に感動する事も多い。また、職員自身に自信を持たせてくれる時もある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>理念に基づき、入居者本位を徹底し、アセスメントした時の問題点にはできるだけ対応していく姿勢をとっている。自立支援を主眼に入居者の自信につながる介護を行い、より良い生活を過ごしてもらいたいと思っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時のアセスメントシートを基に、本人・ご家族と話し合いを行い、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回見直しを行っている。また、必要に応じて随時見直しを行い、関係者の意見を踏まえた上で、現状に即した介護計画を作成している。</p>		

【千葉県】グループホームハートライフ一宮

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院時の手続きを代行したり、病院で夜間の付き添いが必要なときは、職員が病院に泊まることもある。また、在宅に戻るときのフォローや、退居後の生活の検討を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診はないが、入居者・家族の要望があれば、協力病院以外の通院支援もしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設以来ターミナルケアの事例は無い。現在、訪問看護との連携を考えており、近くのクリニックの医師と相談し、ホーム内で終末期を迎えられる様に調整をしている。体制作りはこれからである。		今後の入居者の重度化及び終末期に向けた対応を想定し、早い段階でのケア方針及び関係者との連携体制の確立を希望する。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇マニュアルがあり、会話には細心の注意をはらっている。入居者の個人情報については、棚に施錠をし保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を尊重し、職員の見守りの中、個々のペースでのんびりと生活できるように支援している。		

【千葉県】グループホームハートライフ一宮

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りから調理作業まで、職員と入居者が一緒に行っており、個々の能力により役割分担も配慮している。好みに合わない献立の時は代替食で対応している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴は可能で順番も決まっている。中には入浴拒否をする入居者もいるが、その場合はシャワー浴に変更するなど臨機応変に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯を干す・たたむ事など日常的なことは、各自でする事が多い。また、おやつ・水筒を持参でドライブに行くことなど気晴らしの支援をしている。特に週3回の買い物ツアーは入居者から喜んでもらっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1日に1回は散歩に出かけることを心がけている。また、買い物ツアーに出かける事が多く、スーパーで当日の献立が変更になることも少なくない。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしていないが、居室は各自施錠可能である。夜間は、防犯の為、門は閉めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施し、緊急連絡網の確認も定期的に行っているが、地域の方の参加は今のところ無い。また職員が随時、救命救急講習に参加し、出席者が講習会を開いて伝達をしている。		地域の方々にも、避難訓練に参加いただくよう働きかけていくと共に、防災に向けた提案をしていただきたい。一住民として助け合いを強調することにより、自治体や地域の機関等にもグループホームその物のあり方を理解していただけるのではないと思う。またスタッフのやりがいを促し、自信にもつながると思う。

【千葉県】グループホームハートライフ一宮

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	希望により食事量を調整して提供している。水分・食事も毎回記録している。食事が取れない場合は、おやつなどでカロリー摂取ができるように工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下幅が広く、リビングも明るい。2つのユニットは事務室を間に行き来できるようになっている。庭には畑があり作った野菜を食べることも多い。リビングには、散歩のときに採取したすすきを使った月見の飾り物があり季節感が感じられる。皆で飼育している亀は、色々なニックネームで呼ばれておりホームの人気物である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、使い慣れた家具が持ち込める様になっており、カーテンも好きな柄のものを持ち込んでいる。また、畳での生活が希望の場合は部屋に畳を入れることが出来るなど、心地よい生活が送れるように配慮している。		